豊富村埋蔵文化財調査報告第８集

山梨県東八代郡豊富村

平成10年度
村内遺跡発掘調査報告書

1999

豊富村教育委員会

豊富村埋蔵文化財調査報告第８集

山梨県東八代郡豊富村

平成10年度
村内遺跡発掘調査報告書

1999

豊富村教育委員会

序

豊富村は甲府盆地の南部に位置し、北に笛吹川が流れ、南に御坂山塊が東西に連なり、とても自然に恵まれた村です。また曽根丘陵を中心に古代遺跡が多数存在し、中世の初めにはこの地一帯は甲斐源氏の一族浅利与一公の支配下にありました。その墓塔が大福寺にあり、代々大切に守られてきたため、その遺構は何百年も風雪に耐えながらも、雄健にしてなお威風堂々とその威厳を保っています。

豊富村では近年、シルクの里公園の整備、シルクラインやふるさと農道の村道の建設など、地域活性化促進のために各種の開発が盛んに行われています。また国道140号線沿いの交流促進センターが「道の駅」に指定され、さらなる本村の情報の発信源として、且つ交流の場として期待されております。また民間でも宅地開発や個人住宅の建設など各種の開発が相次いでいるのが現状です。

本報告書は平成10年度に実施した豊富村内における各種開発に伴う埋蔵文化財有無の確認調査の結果をまとめたものです。高部宇山平遺跡では古墳時代中期の溝跡が確認されました。この溝は古墳の周溝と思われ、宇山平古墳群内の古墳分布を解明する好資料が見つかりました。また、今までほとんど実態がわからなかった宇山遺跡で古墳時代の須恵器の破片が見つかるなど、各遺跡の状況を把握する上で貴重な発見がありました。

なお今回の調査にあたり、ご指導・ご協力をいただきました地元地権者の方々をはじめ、関係各位に厚く感謝申し上げます。

本報告書が今後、有意義に活用されることを希望いたします。

1999年3月31日

豊富村教育委員会
教育長　**萩　原　保　正**

例　　言

1．本書は平成10年度に山梨県東八代郡豊富村内で発掘された遺跡調査の報告書である。
2．発掘調査は文化庁・山梨県より補助金を受けて、豊富村教育委員会が実施した。
3．発掘調査及び出土品の整理は、豊富村教育委員会が実施した。
4．本書における出土品及び記録図面・写真は豊富村教育委員会が保管している。
5．本報告書の執筆・編集・写真撮影は岡野が行った。
6．本調査にあたり、山梨県教育庁学術文化財課及び豊富村各区の住民の皆様、地権者の皆様にご指導・ご理解をいただきながら調査を進めることができた。心から謝意を表する次第である。
7．発掘調査・出土品の整理及び報告書の作成については、次の方々からご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。

（敬称略）

小野正文・森原明廣・高野玄明・中山誠二（山梨県教育庁学術文化財課）、林部光（中道町教育委員会）、野崎進（境川村教育委員会）、伊藤修二（八代町教育委員会）、望月和幸・松本京子（御坂町教育委員会）、小渕忠秋（石和町教育委員会）、瀬田正明・猪股喜彦（一宮町教育委員会）

調　査　組　織

調査主体	豊富村教育委員会
調査担当者	岡野秀典
事務局	萩原保正（教育長）・中込清彦（教育課長）・今井賢（教育係長）・井上妙・柿嶋正宣・中楯紀男・井上陽子
調査・整理参加者（敬称略）	相原ツネ子・有泉つや子・有泉ふくじ・石原喜代の・長田長美・長田春美・河野紀久代・小林英子・小林芳次・桜井里子・桜井幸子・高野萬千子・塚田よ志江・萩原定子・村松俊江・渡辺きく江

目　　次

序
例言・調査組織
目次
第１章　平成10年度の調査概要……1
第２章　代中遺跡の調査……2
第３章　代中遺跡の調査……4
第４章　三枝氏館跡の調査……6
第５章　上野原遺跡の調査……8
第６章　高部宇山平遺跡の調査……10
第７章　宇山遺跡の調査……19
第８章　浜井戸遺跡の調査……24
第９章　弥二郎遺跡の調査……27

挿　図　目　次

第１図　調査区位置図(1/10,000)……2
第２図　調査区全体図・土層図……3
第３図　調査区位置図(1/10,000)……4
第４図　調査区全体図・土層図……5
第５図　調査区位置図(1/10,000)……6
第６図　調査区全体図・土層図……7
第７図　調査区位置図(1/10,000)……8
第８図　出土土器……9
第９図　調査区位置図(1/10,000)……10
第10図　土層図(1)……11
第11図　土層図(2)……12
第12図　土層図(3)……13
第13図　全体図(1)……14
第14図　全体図(2)……14
第15図　全体図(3)……14
第16図　１号溝……15
第17図　出土土器・石器(1)……17
第18図　出土土器・石器(2)……18
第19図　調査区位置図(1/10,000)……19
第20図　土層図(1)……20
第21図　土層図(2)……21
第22図　全体図(1)……22
第23図　全体図(2)……22
第24図　出土土器・石器……23
第25図　調査区位置図(1/10,000)……24
第26図　土層図……25
第27図　全体図……26
第28図　調査区位置図(1/10,000)……27
第29図　土層図……28
第30図　全体図(1)……29
第31図　全体図(2)……29
第32図　１号溝……30
第33図　出土土器……30

写 真 図 版 目 次

図版１　代中遺跡調査前風景（５月調査）　代中遺跡完掘（５月調査）
代中遺跡調査前風景（７月調査）　代中遺跡完掘（７月調査）
三枝氏館跡完掘　上野原遺跡土器出土状況
図版２　上野原遺跡出土土器　上野原遺跡出土土器
高部宇山平遺跡１号溝　高部宇山平遺跡１号溝出土土器
高部宇山平遺跡第３トレンチ　高部宇山平遺跡第７トレンチ
図版３　宇山遺跡第１トレンチ　宇山遺跡出土須恵器
浜井戸遺跡第１トレンチ　弥二郎遺跡１号溝
弥二郎遺跡第２トレンチ　弥二郎遺跡１号溝出土土器

第1章　平成10年度の調査概要

No.	収遺跡名	ふりがな	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
			山梨県東八代郡豊富村	19328								
1	代中	だいちゅう	木原1288-1		県 7 村 6	980514	5	農業用倉庫建設	散布地	縄文・古墳	なし	なし
2	代中	だいちゅう	木原1203-1		県 7 村 6	980727	5	個人住宅建設	散布地	縄文・古墳	なし	なし
3	三枝氏館跡	さいぐさしやかたあと	木原1863-1		県 5 村 9	980910	5	個人住宅建設	館跡	中世	なし	なし
4	上野原	うえのはら	木原1712		県 6 村 10	981113	5	農業関連	散布地	縄文・古墳 近世	なし	土師器
5	高部宇山平	たかべうやまだいら	大鳥居1574他		県 9 村 3	990204 ～ 990215	125	村道ふるさと農道高部線建設	集落跡	縄文～近世	溝1本	縄文土器・石器・土師器
6	宇山	うやま	高部1702-1他		県 ― 村 4	990205 ～ 990301	80	村道ふるさと農道高部線建設	散布地	縄文・古墳・中近世	なし	縄文土器・石器・須恵器
7	浜井戸	はまいど	大鳥居3936		県 ― 村 35	990206 ～ 990218	50	村道ふるさと農道高部線建設	散布地	近世	なし	なし
8	弥二郎	やじろう	木原473他		県 22・23 村 15	990222 ～ 990223	18	村道ふるさと農道大鳥居線建設	集落跡	先土器～古墳・中世	溝1本	縄文土器・かわらけ

第２章　代中遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字代中に所在し、曽根丘陵西側の一角に広がる東西に延びる台地上に立地する。

当遺跡の北縁で農業用倉庫建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は５㎡である

平成10年（1998）５月14日　発掘調査を開始・終了

平成10年（1998）５月14日　文化庁に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

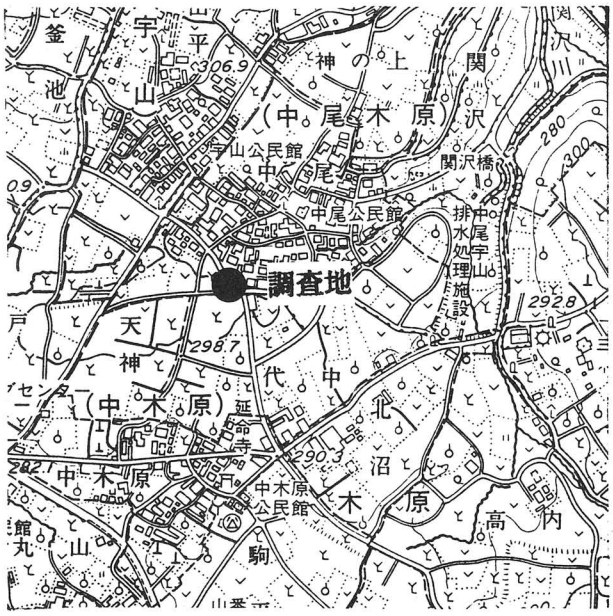
調査方法は調査対象地に応じて２×2.5mの試掘坑を１か所設定して掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは10㎝前後である。

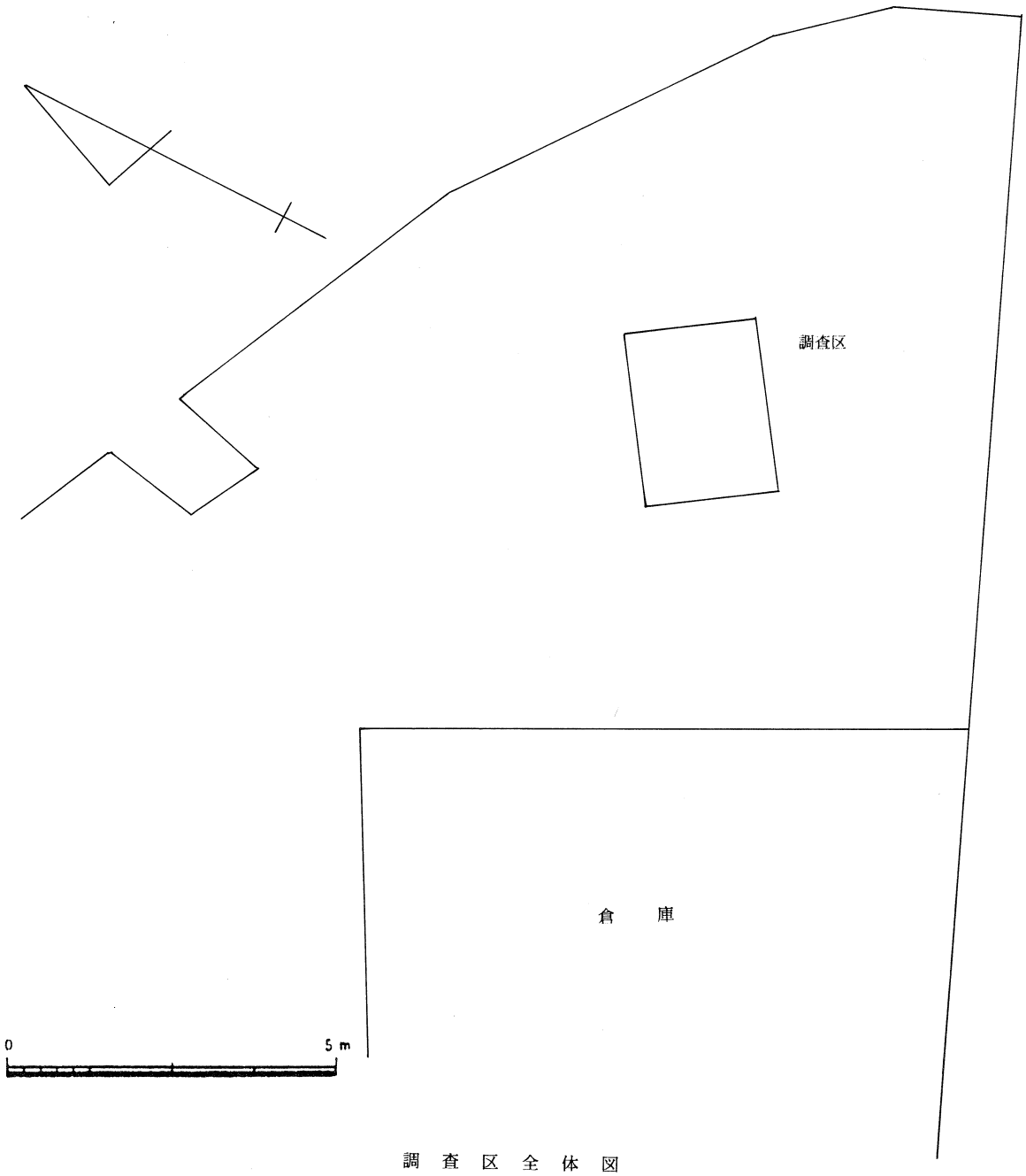
第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第II層　黄褐色ローム

第３節　まとめ

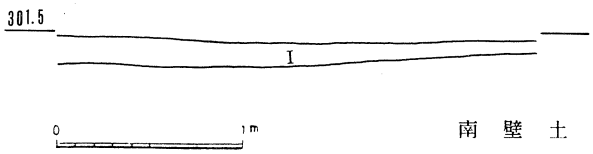
調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第１図　調査区位置図(1/10,000)



調　査　区　全　体　図



I　褐色土　　しまりなし　耕作土

南　壁　土　層　図

第2図　調査区全体図・土層図

第３章　代中遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字代中に所在し、曽根丘陵西側の一角に広がる東西に延びる台地上に立地する。

当遺跡の東縁で個人住宅建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は５㎡である。

平成10年（1998）７月27日　発掘調査を開始・終了

平成10年（1998）７月27日　文化庁に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

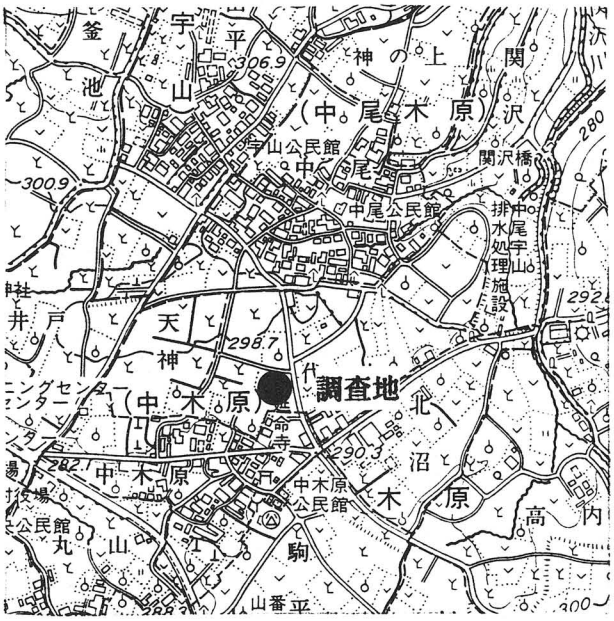
調査方法は調査対象地に応じて２×2.5 ｍの試掘坑を１か所設定して掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第Ⅱ層までの深さは40㎝前後である。

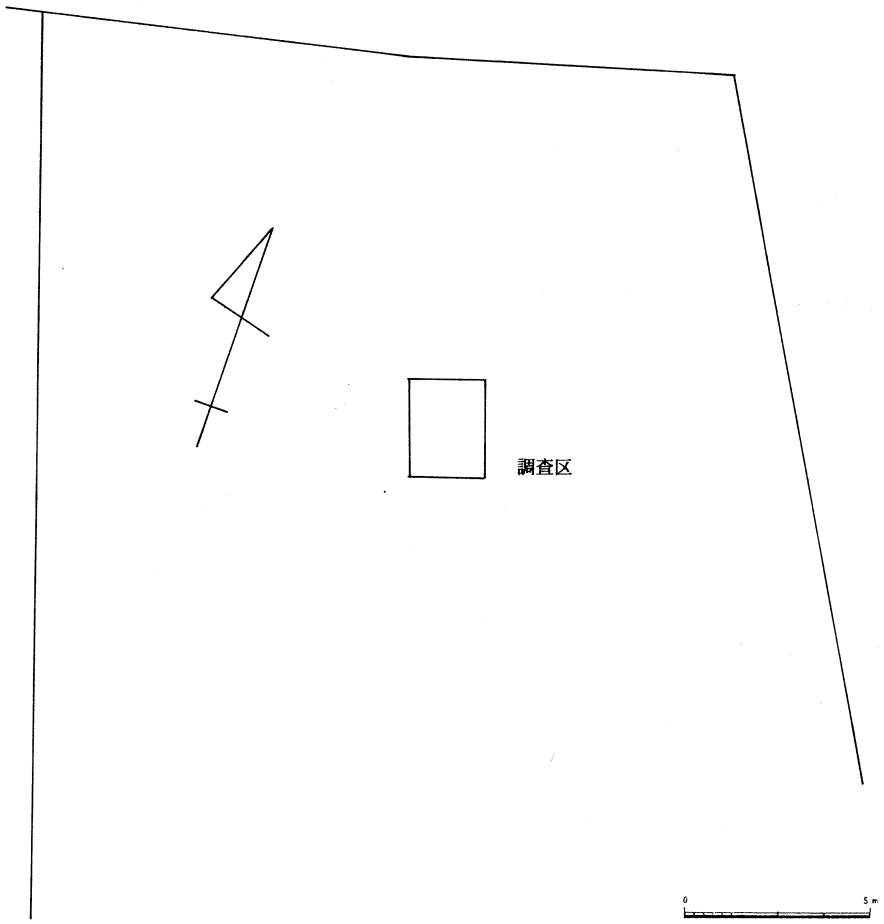
第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　黄褐色ローム

第３節　まとめ

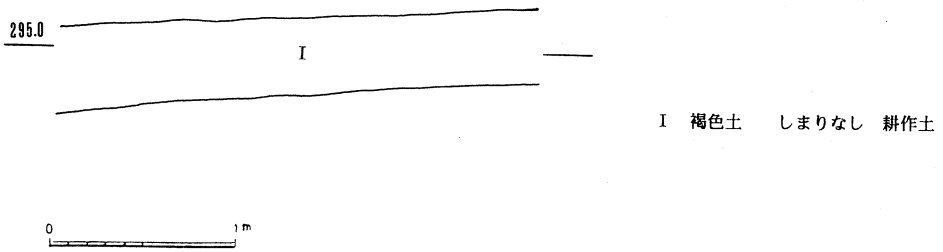
調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第３図　調査区位置図(1/10,000)



調　査　区　全　体　図



西　壁　土　層　図

第4図　調査区全体図・土層図

第４章　三枝氏館跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字高内に所在し、曽根丘陵の一角である舌状台地の先端部に立地する。当遺跡内の東端で個人住宅の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は５㎡である。

平成10年（1998）９月10日　発掘調査を開始・終了

平成10年（1998）９月10日　文化庁に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

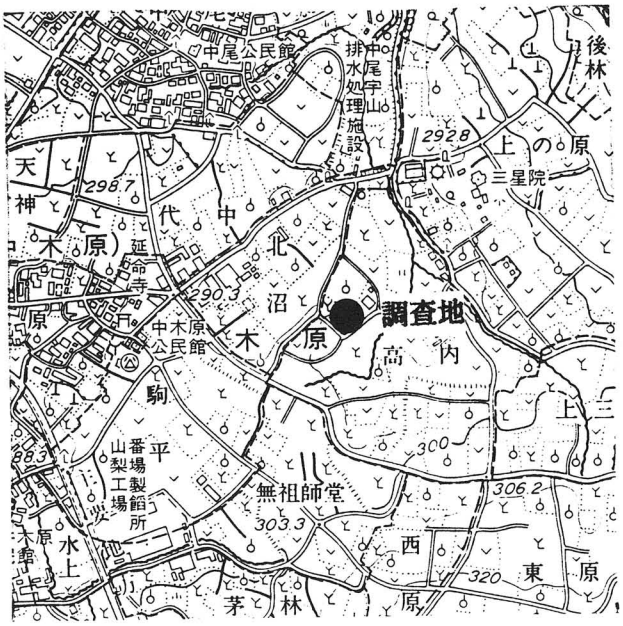
調査方法は調査対象地に応じて、２×2.5mの試掘坑を１か所設定して、ローム面まで掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは50㎝である。

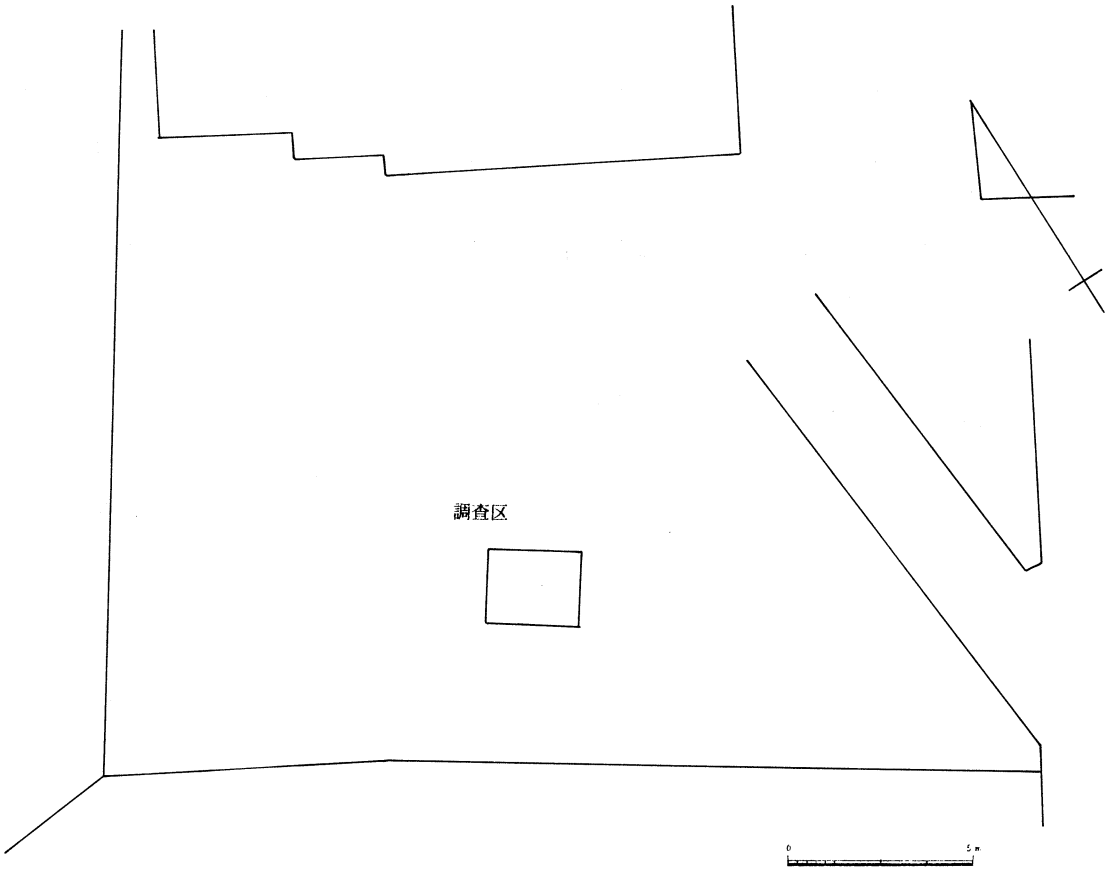
第Ｉ層　褐色土（耕作土）　　第II層　黄白色粘質土

第３節　まとめ

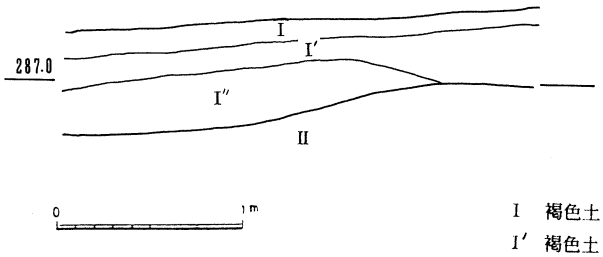
調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第５図　調査区位置図(1/10,000)



調　査　区　全　体　図



I　褐色土　しまりなし　耕作土
I′　褐色土　しまりあり　黄白色粘土粒含む
I″　褐色土　しまりあり　黄白色粘土ブロック含む
II　黄白色粘質土　礫含む

南　壁　土　層　図

第6図　調査区全体図・土層図

第５章　上野原遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字上野原に所在し、曽根丘陵の一角に広がる台地の頂上部に立地する。

当遺跡の中心部の畑地で耕作中に土器が出土したと連絡を受け、試掘調査を実施した。調査面積は５㎡である。

平成10年（1998）11月13日　発掘調査を開始・終了、文化庁に発掘報告を提出

平成10年（1998）11月18日　南甲府警察署に遺失物発見届提出

第２節　調査方法及び基本層序

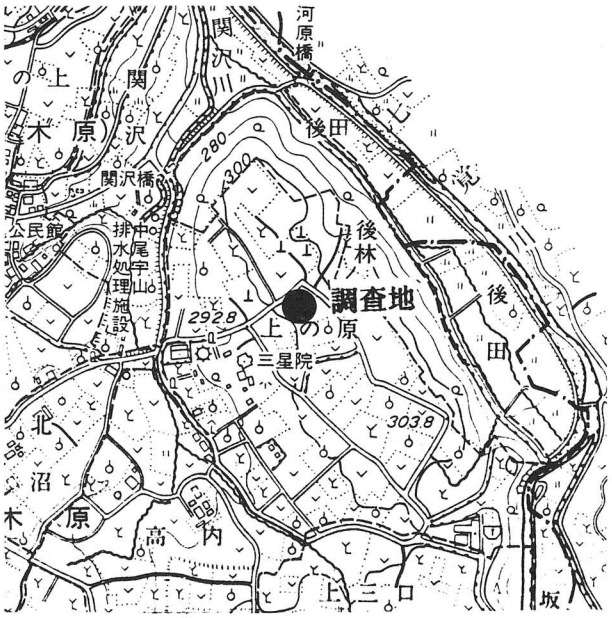
調査方法は１×５ｍの耕作坑（ごぼう穴）を利用して土器の取り上げ、遺構の精査を行った。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは90㎝前後である。

第Ｉ層　褐色土（耕作土）　　第II層　黄褐色ローム

第３節　検出された遺物

１は土師器壷である。欠けているところがほとんどなく、ほぼ完形品である。口径26.0㎝、底径14.0㎝、器高78.5㎝とかなりの大型品である。色調は橙褐色。外面は口縁部が横方向のヘラミガキ、胴部は斜め方向のヘラミガキ、底部付近はハケメ調整、底面に木葉痕が残る。内面は口縁部が横方向のヘラミガキ、頸部・底部はハケメ調整、底部の上方にヘラミガキを施す。

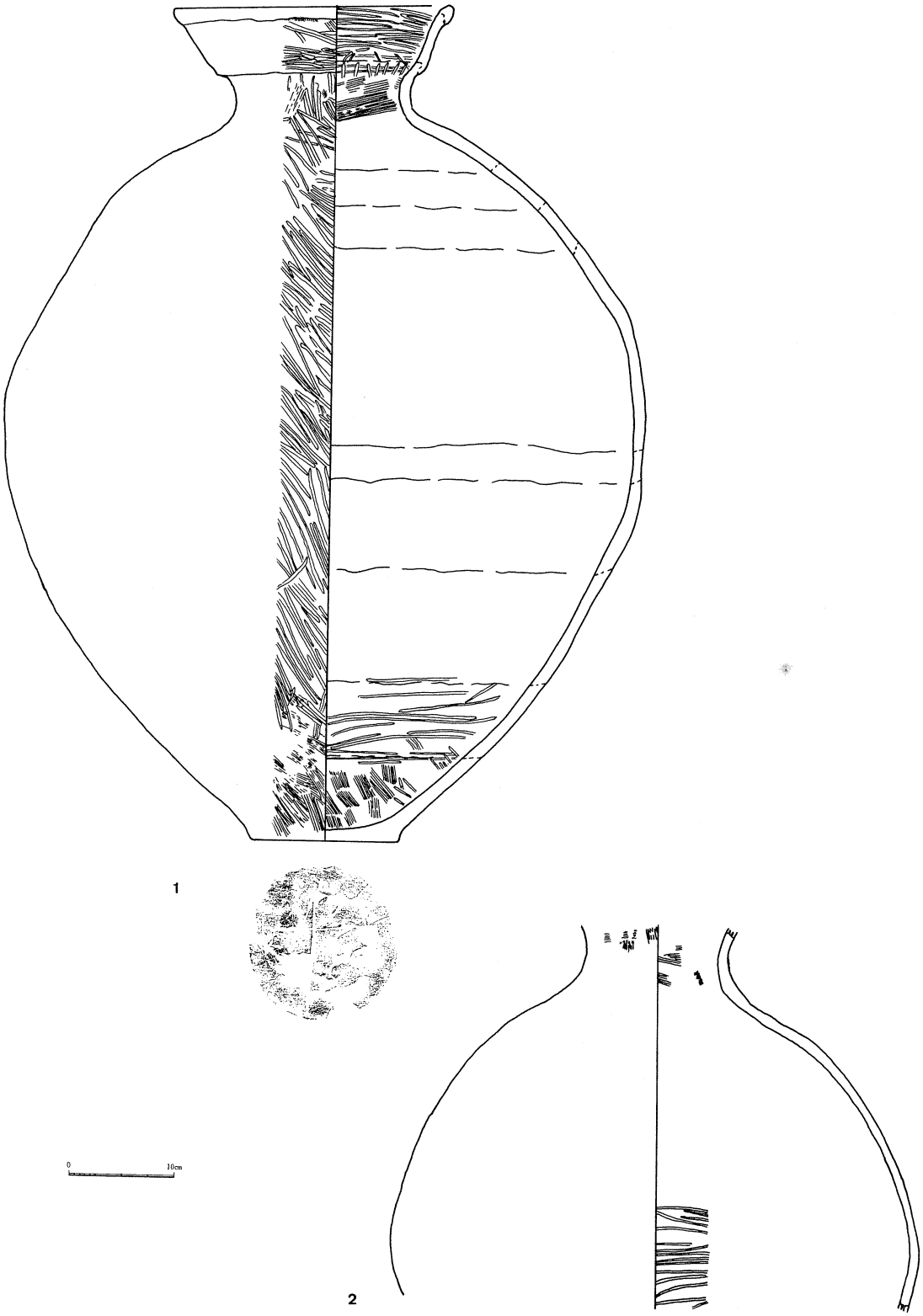


第７図　調査区位置図(1/10,000)

２は土師器壷である。胴部上半部で、残存状況は胴部が半周残り、頸部は全周する。頸部径13.0㎝、残存高36.5㎝、色調は橙褐色。外面・内面ともに横方向のヘラミガキで、頸部にハケメ調整を行う。

１は横倒しの状態で出土し、２の土器が１の蓋のように覆いかぶさっていた。２の口縁部は正位の向きであった。１の土器の内部からは何も出土していない。

２つの土器が遺構に伴うものかどうかは確認できなかったが、おそらく、土器の出土状況から土坑もしくは溝内に据えられた壷棺と思われる。



第8図　出土土器

第６章　高部宇山平遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村高部字伊勢塚他に所在し、甲府盆地の南側から東側に連なる曽根丘陵を形成する宇山平と呼ばれる台地上の北側に立地する。

当遺跡内を縦断して村道建設の計画があり、試掘を実施した。調査面積は125㎡である。

平成11年（1999）２月４日　発掘調査を開始

平成11年（1999）２月12日　文化庁に発掘報告を提出

平成11年（1999）２月15日　発掘調査を終了

平成11年（1999）２月19日　南甲府警察署に遺失物発見届提出

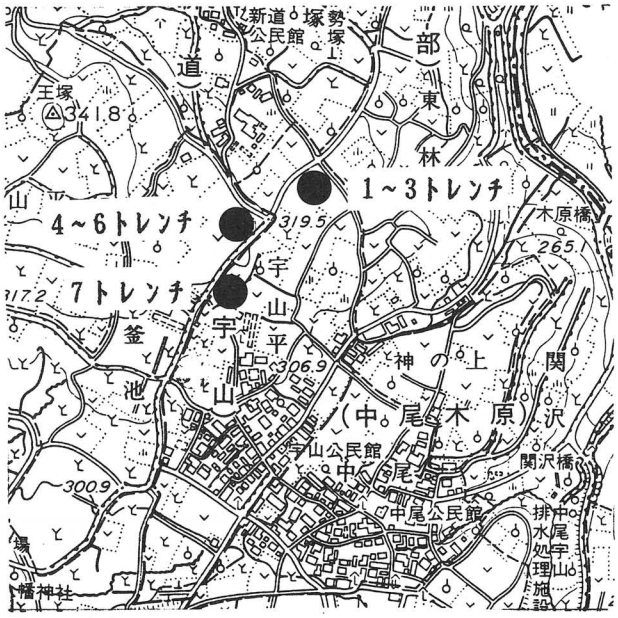
第２節　調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて２×１～18.5mのトレンチを７か所設定し、それぞれに１～７区と名づけ、ローム面まで掘り下げた。

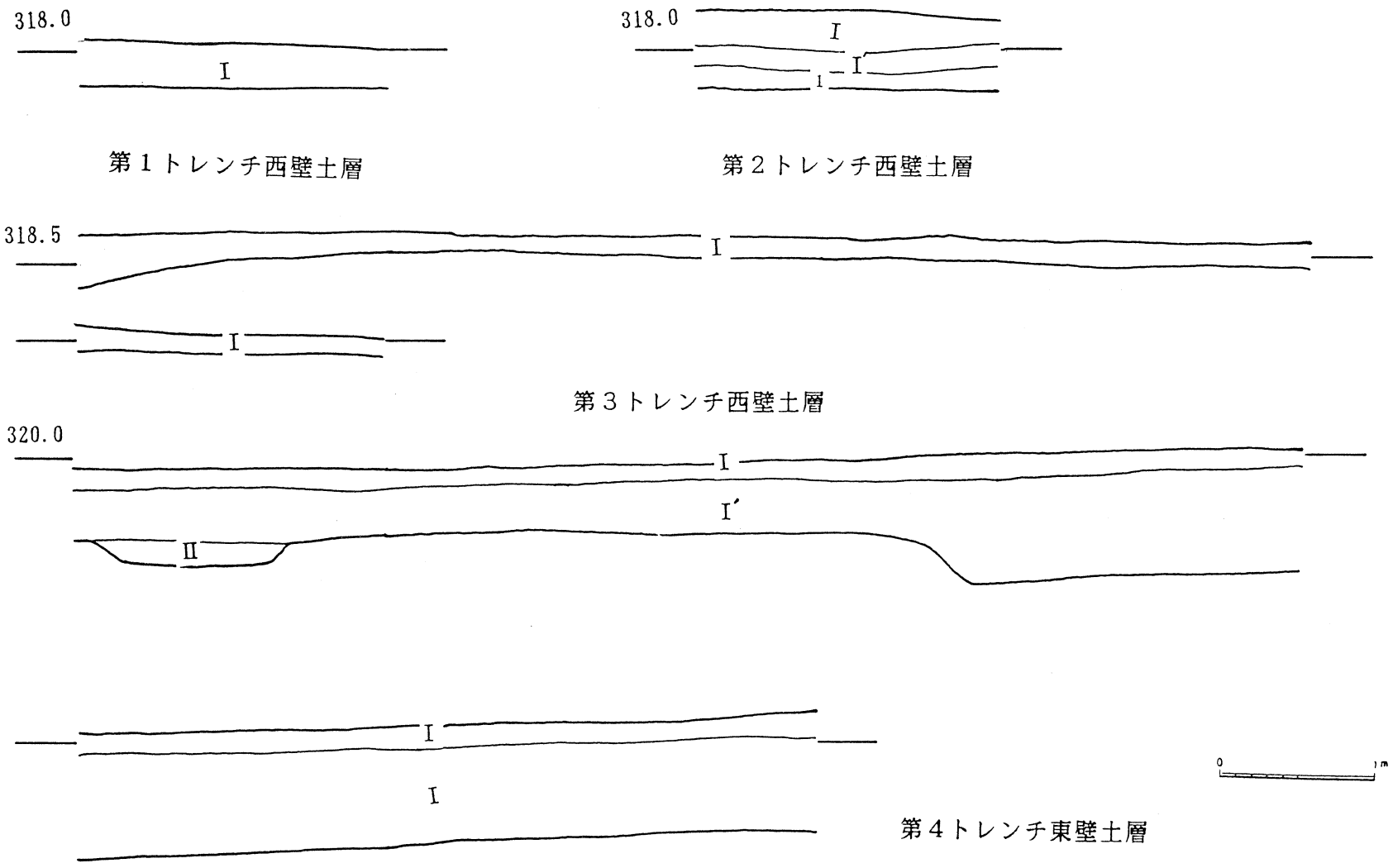
基本層序は次のとおりである。なお、地表から第Ⅲ層までの深さは15～80㎝である。

第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　暗褐色土　　第Ⅲ層　黄褐色ソフトローム

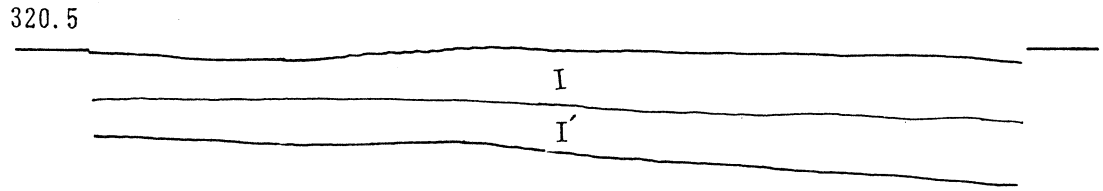
第Ⅳ層　暗黄褐色ハードローム



第９図図　調査区位置図(1/10,000)

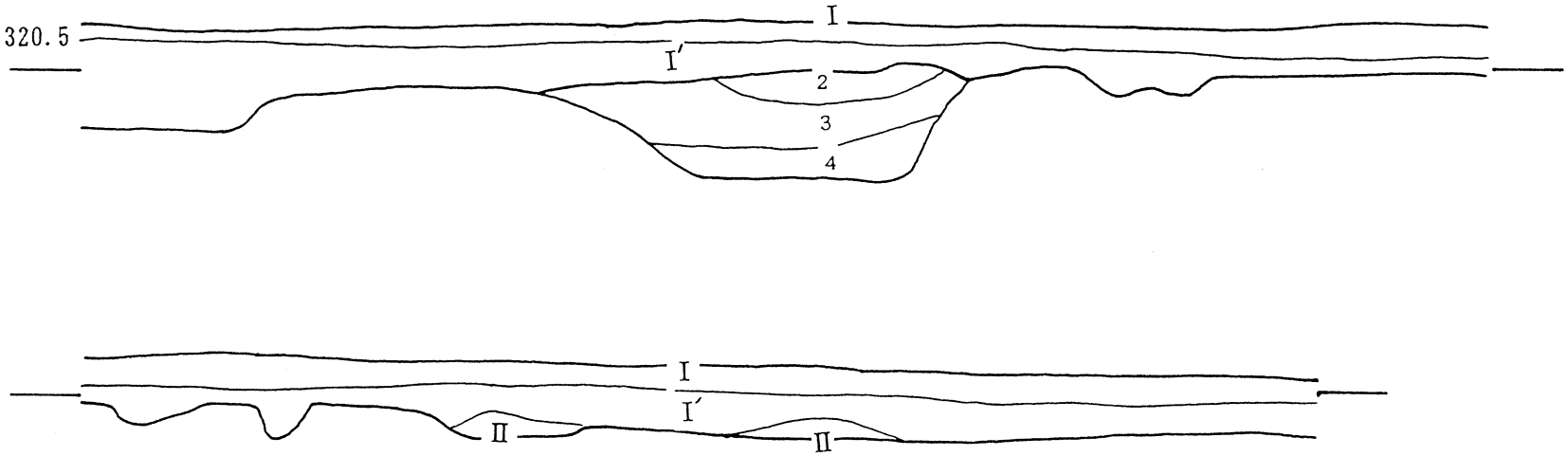

318.0
I
第１トレンチ西壁土層
318.0
I
I′
I
第２トレンチ西壁土層
318.5
I
I
第３トレンチ西壁土層
320.0
I
I′
II
I
I
第４トレンチ東壁土層
0
1m

第10図　土層図(1)



第５トレンチ西壁土層

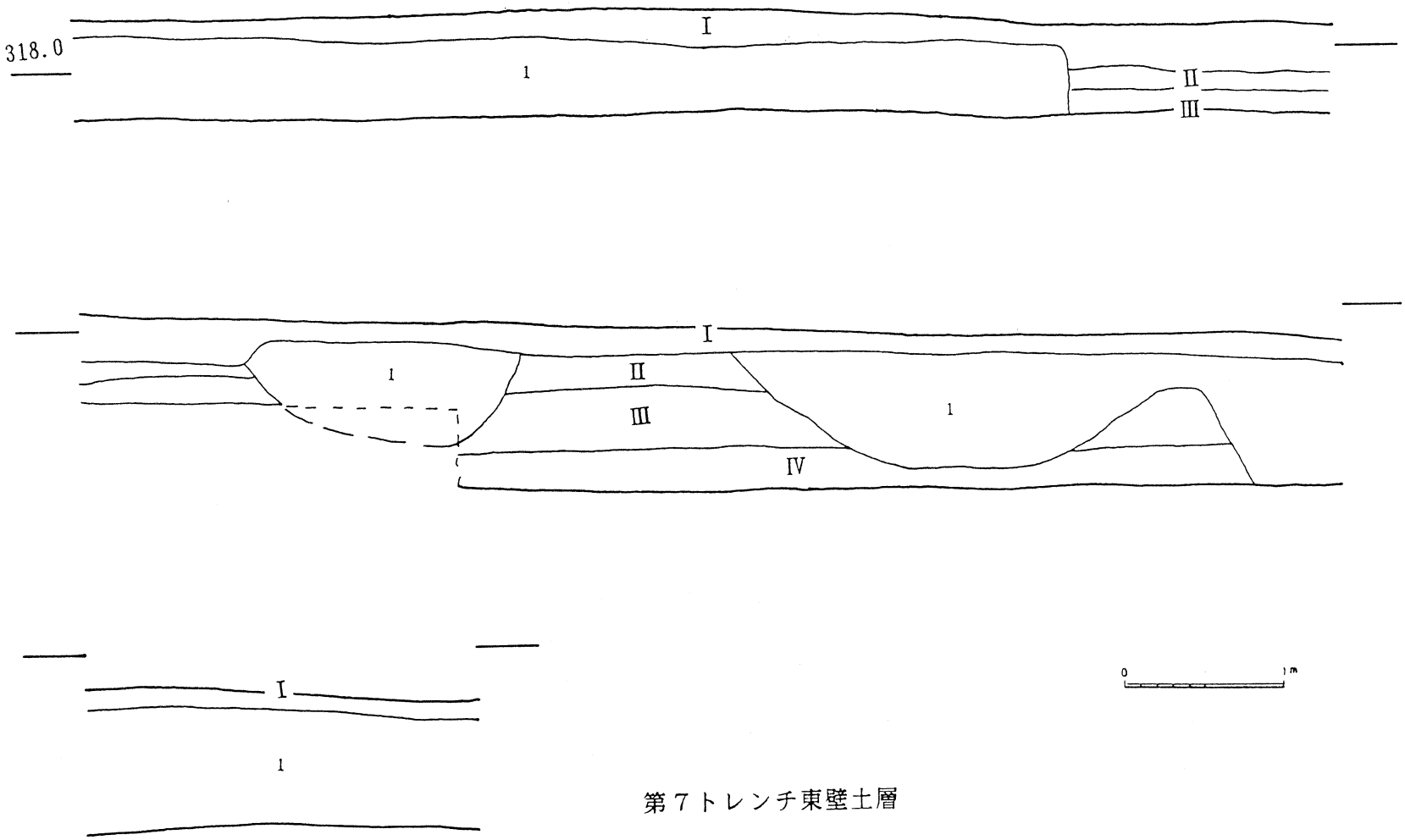
Ⅰ　褐色土　　しまりなし　耕作土
Ⅰ′　褐色土　　しまりなし　ロームブロック含む　耕作土
Ⅱ　暗褐色土　しまりあり
Ⅲ　黄褐色ソフトローム
Ⅳ　暗黄褐色ハードローム
1　攪乱層
2　黒色土　　しまりなし　１号溝の覆土
3　暗褐色土　　〃　　〃
4　褐色土　　〃　　〃



第６トレンチ西壁土層

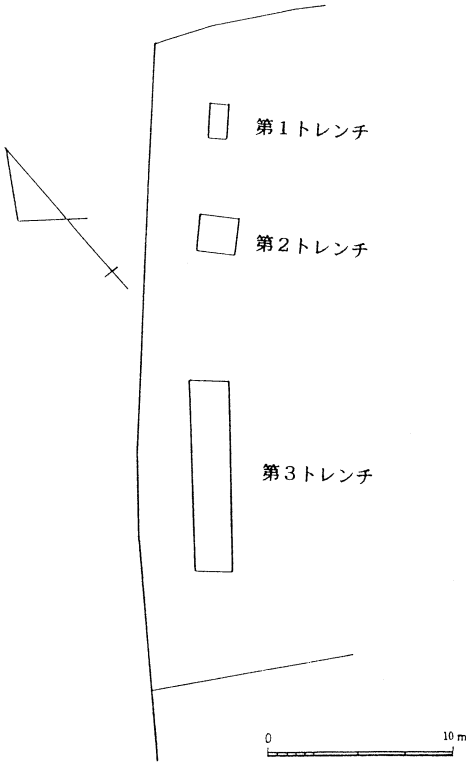
0　1m

第11図　土層図(2)

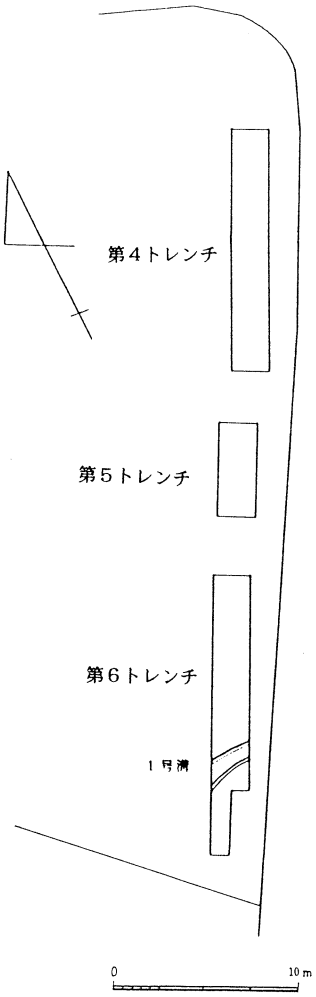


第７トレンチ東壁土層

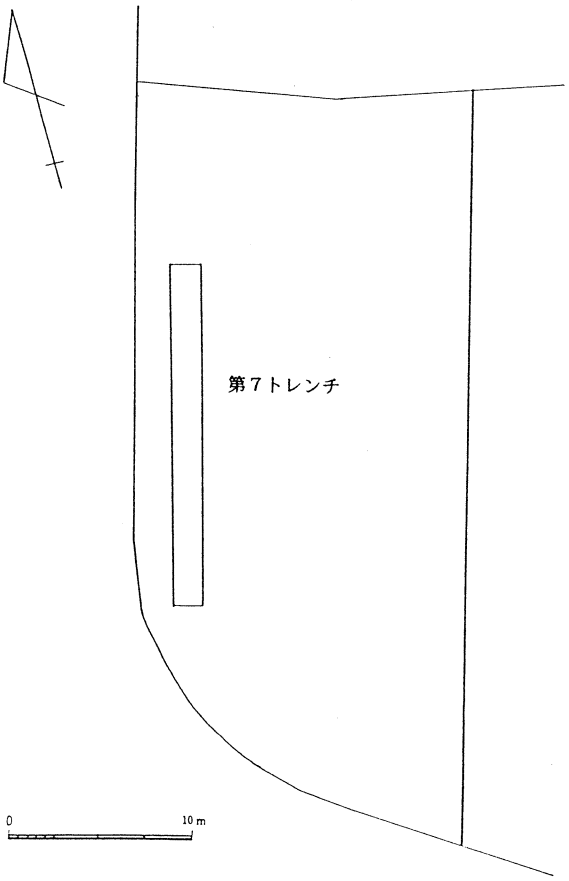
第12図　土層図(3)



第13図　全体図(1)



第14図　全体図(2)



第15図　全体図(3)

第３節　検出した遺構と遺物

(1)　第１・２・４・５区の遺物（第17図）

１は口唇部に沈線をめぐらす。縄文時代後期前葉の堀之内式。２は沈線文。堀之内式。３は縄文ＬＲに沈線文。堀之内式。４は口唇部に２本の沈線をめぐらす。堀之内式。５は口唇部に沈線をめぐらす。堀之内式。６は口唇部にいくつかの円形刺突を施し、１つは貫通している。堀之内式。７は沈線文。堀之内式。８は沈線文。堀之内式。９は綾杉文。縄文時代中期後半の曽利Ⅳ式。10は沈線文。堀之内式。11は沈線区画内に縄文。堀之内式。12は縄文地。堀之内式か。13は凹石。長さ10.6㎝、幅10.0㎝、厚さ4.9㎝。凝灰岩製。14は磨石。長さ10.4㎝、幅6.9㎝、厚さ3.8㎝。安山岩製。15は磨石。長さ11.1㎝、幅6.6㎝、厚さ4.9㎝。安山岩製。16は磨石。残存長4.3㎝、幅8.4㎝、厚さ4.3㎝。玄武岩製。１～３は第１トレンチⅠ層出土。４～８は第２トレンチⅠ層出土。９～15は第４トレンチⅠ層出土。16は第５トレンチⅠ層出土

(2)　第６区の遺構と遺物（第16・18図）

１号溝

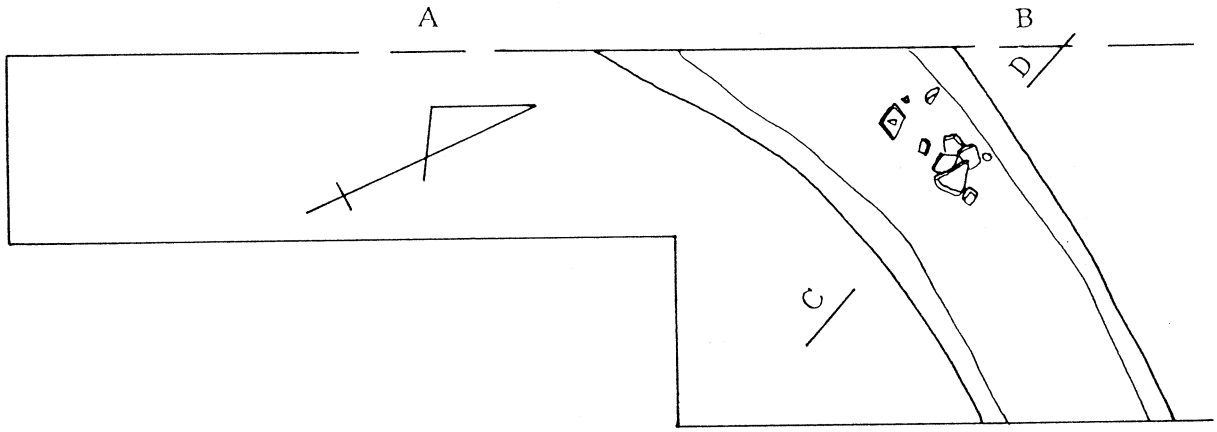
６区の南側で確認され、東西両側は調査区外に延びる。調査区内で若干湾曲する。南北幅90～105㎝、深さ約30㎝を測る。急な立ち上がりで、床面は平坦である。覆土は黒色土、暗褐色土、褐色土の３層に分けられる。本遺構は溝の走り具合から小円墳の周溝と思われる。

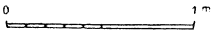
出土遺物は１の古墳時代中期の土師器甕の胴部下半部が出土した。底径9.5㎝、残存高15.0㎝を測り、外面はヘラナデ調整で一部ハケメ痕が見られる。内面はハケメ調整である。色調は暗褐色である。その他、18は縄文土器の底部で底面に網代痕が残る。20は磨石で、残存長4.5㎝、幅7.7㎝、厚さ4.6㎝。玄武岩製。

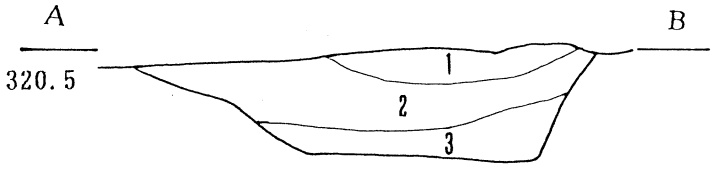
19は細い沈線の下に縄文を施す。堀之内式か。遺構外のⅠ層出土。

第４節　まとめ

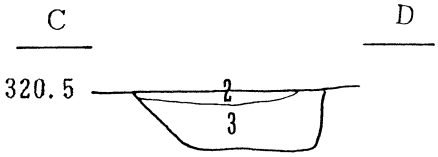
調査の結果、６区より古墳時代中期の小円墳の周溝と思われる溝が１本検出した。本遺跡は宇山平古墳群と大部分が重なる地域である。王塚古墳と伊勢塚古墳以外は近年の耕作により削平されてしまい、その分布状況は、発掘調査で周溝確認をしていかないと分からない状況である。今回新たに１か所で古墳跡が確認できたことは宇山平古墳群の古墳分布状況を調査する上で、大きな成果を得た。しかし調査範囲が限られていることから全容の把握までには至らなかった。



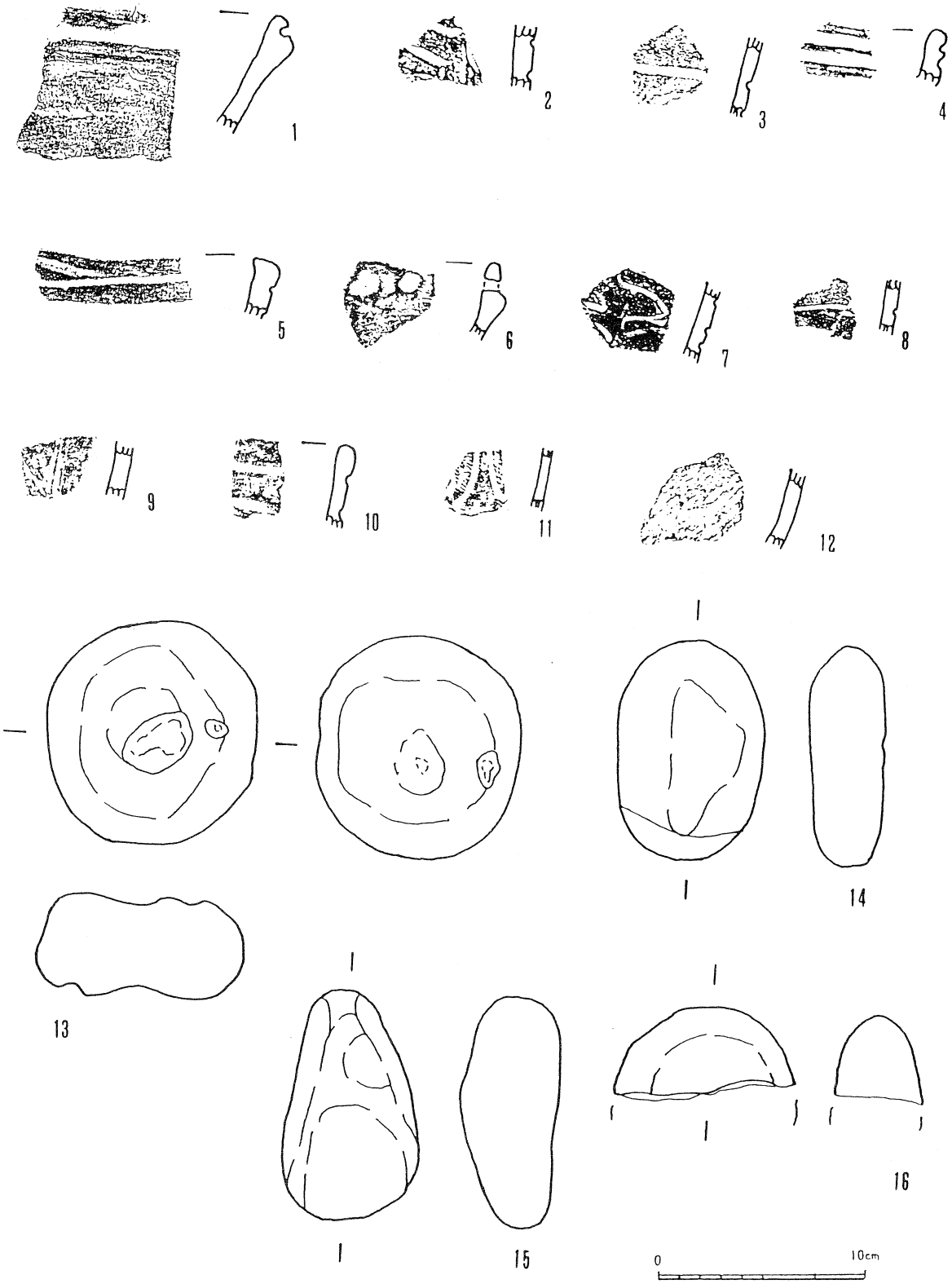




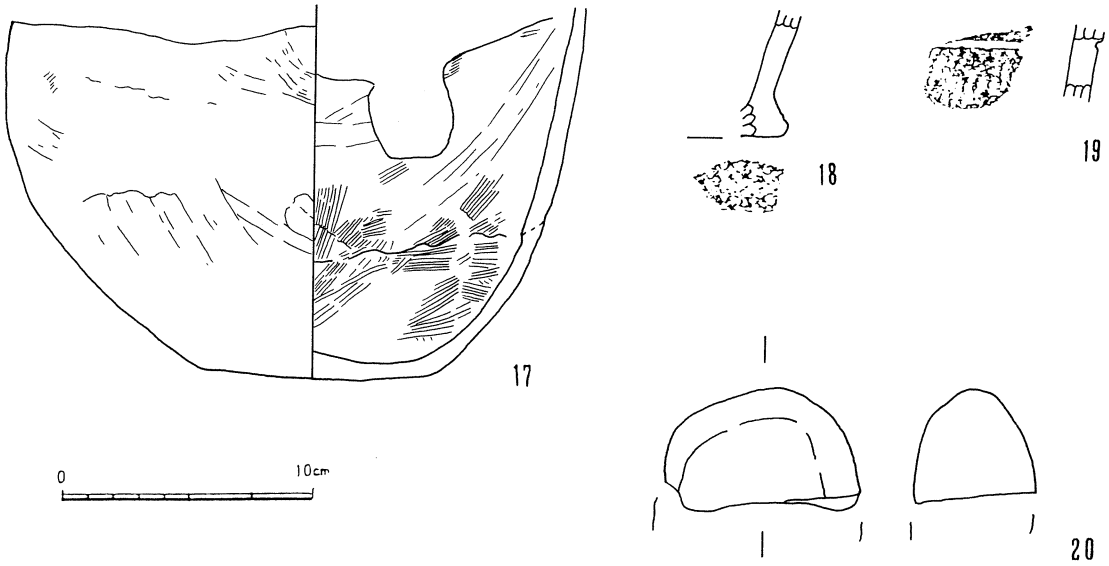
1　黒色土　　しまりなし
2　暗褐色土　　〃
3　褐色土　　〃



第16図　1号溝



第17図　出土土器・石器(1)



第18図　出土土器・石器(2)

第７章　宇山遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村高部字宇山平に所在し、甲府盆地の南側から東側に連なる曽根丘陵を形成する宇山平と呼ばれる台地上の南側に立地する。

当遺跡内の西端に沿って村道建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は80㎡である。

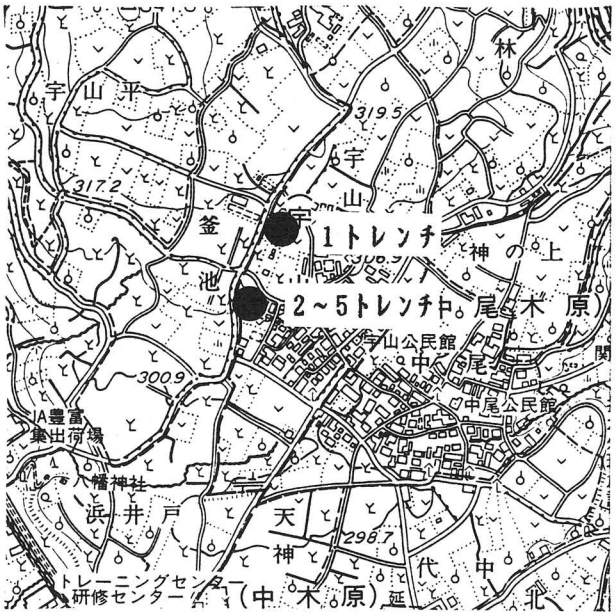
平成11年（1999）２月５日　発掘調査を開始
平成11年（1999）２月12日　文化庁に発掘報告を提出
平成11年（1999）３月１日　発掘調査を終了
平成11年（1999）３月４日　南甲府警察署に遺失物発見届提出

第２節　調査方法及び基本層序

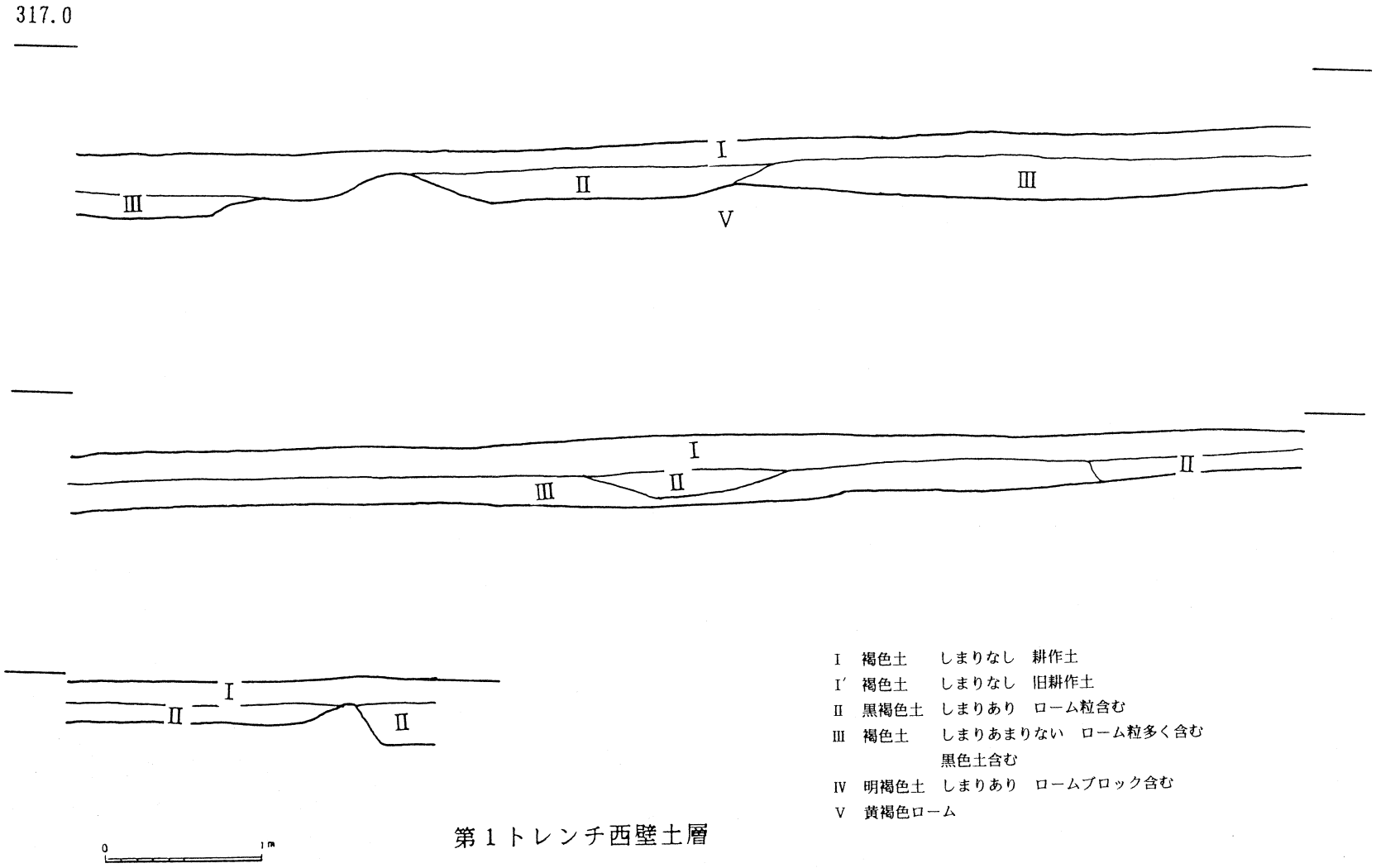
調査方法は調査対象地に応じて、２×18mが１か所、３×1.5mが４か所のトレンチを設定定し、それぞれに１～５区と名づけ、ローム面まで掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。１区での地表から第Ⅴ層までの深さは20～40㎝である。また２～５区は深くて谷状に落ち込んでいるようで、地表から100㎝でⅣ層上面となり、150㎝まで掘り下げてもローム面は確認できなかった。

第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　黒褐色土　　第Ⅲ層　褐色土
第Ⅳ層　明褐色土　　第Ⅴ層　黄褐色ローム



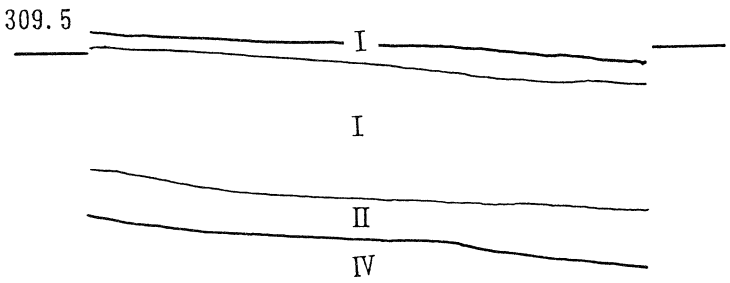
第19図　調査区位置図(1/10,000)



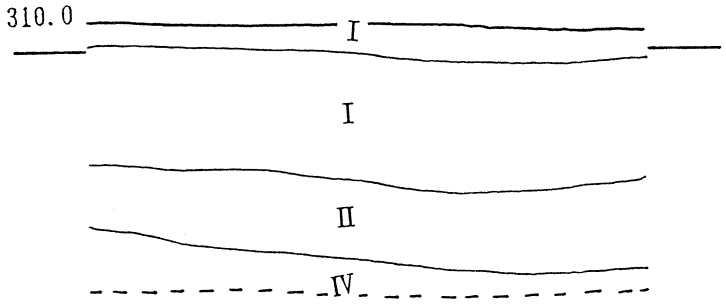
第１トレンチ西壁土層

Ⅰ　褐色土　　しまりなし　耕作土
Ⅰ′　褐色土　　しまりなし　旧耕作土
Ⅱ　黒褐色土　しまりあり　ローム粒含む
Ⅲ　褐色土　　しまりあまりない　ローム粒多く含む
　　黒色土含む
Ⅳ　明褐色土　しまりあり　ロームブロック含む
Ⅴ　黄褐色ローム

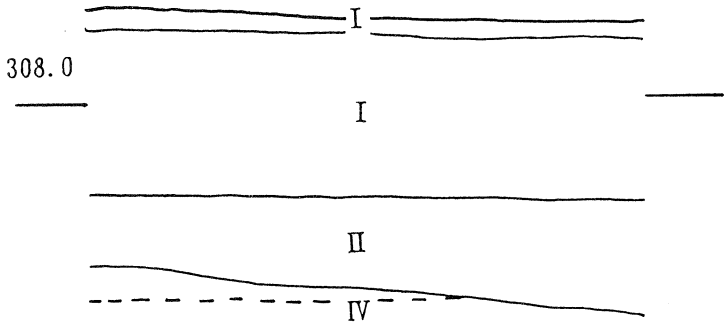
第20図　土層図(1)



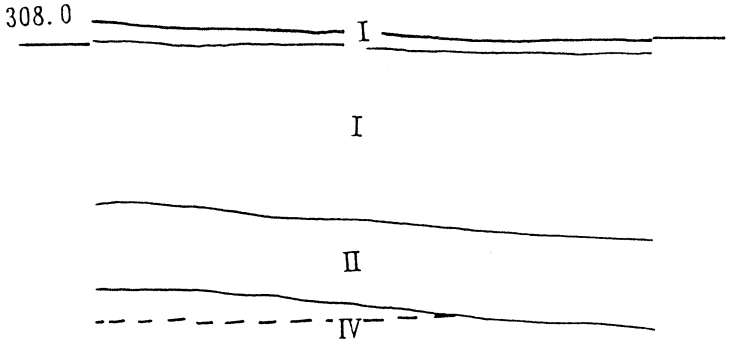
第２トレンチ東壁土層



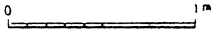
第３トレンチ東壁土層



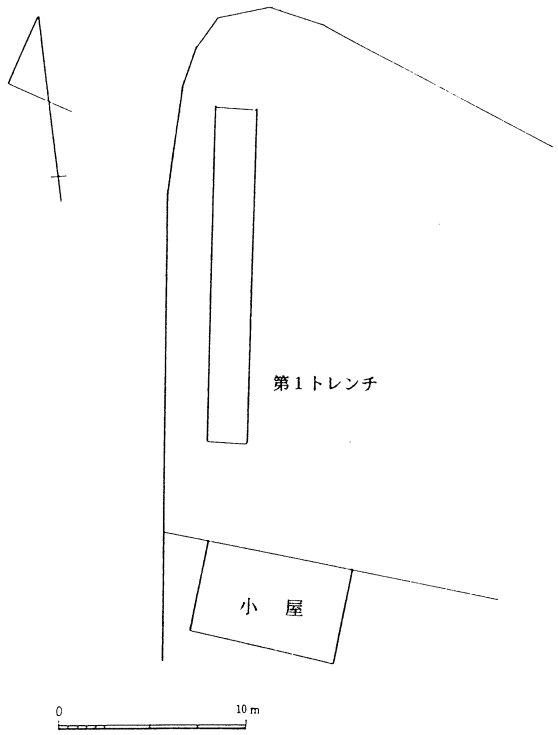
第４トレンチ東壁土層



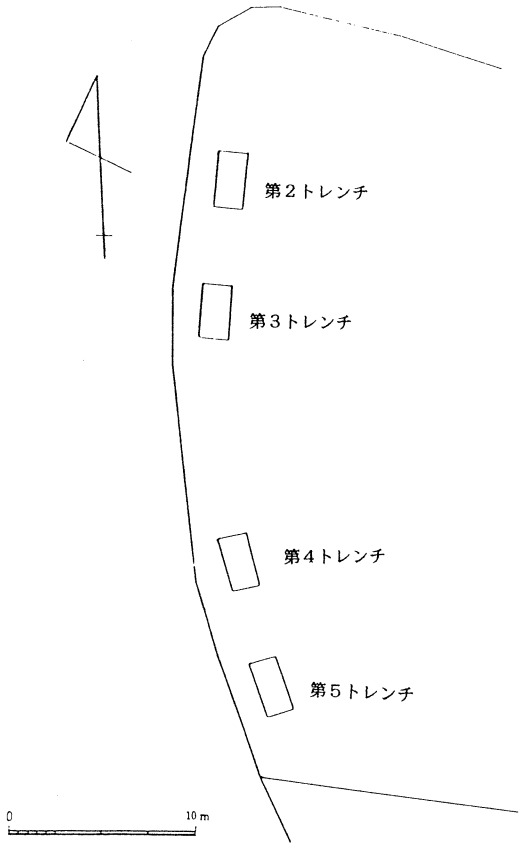
第５トレンチ東壁土層



第21図　土層図(2)



第22図　全体図(1)

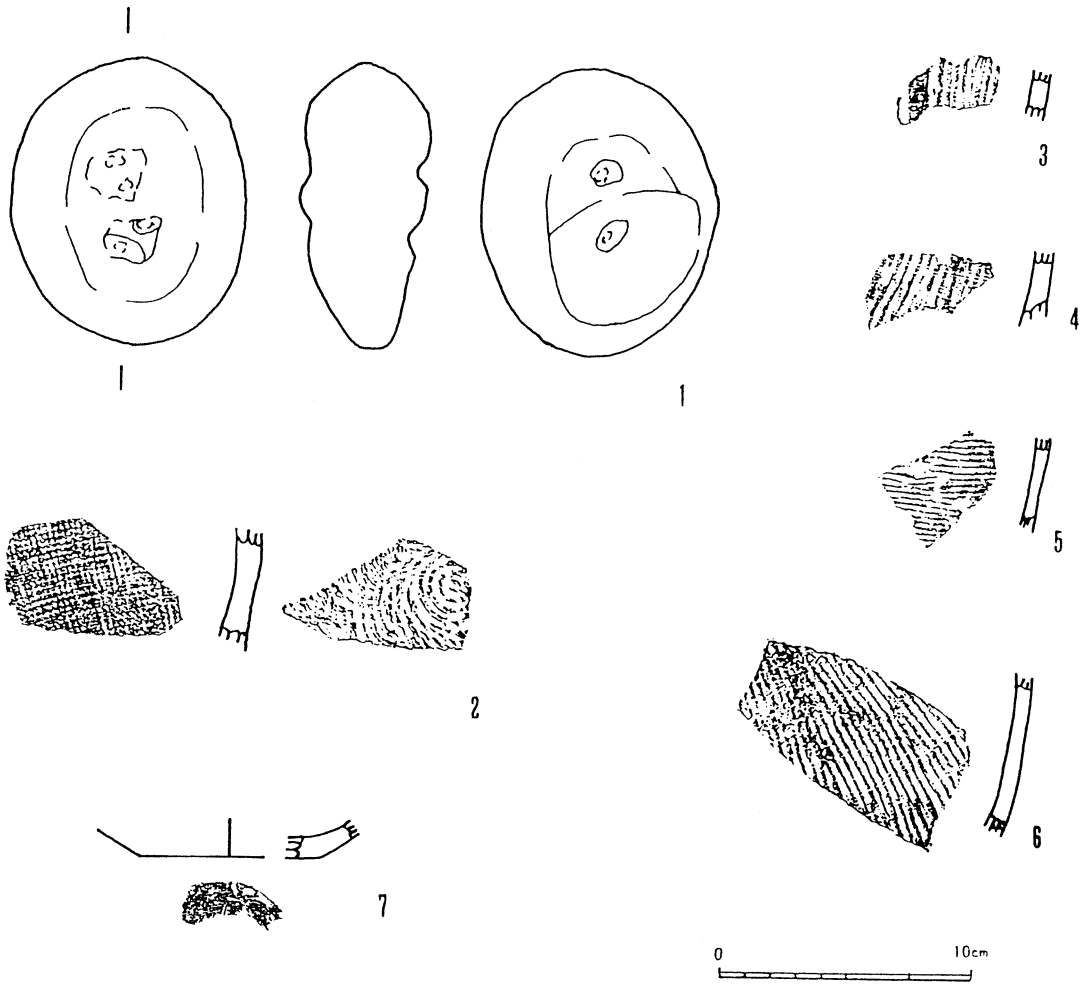


第23図　全体図(2)

第３節　検出された遺物

(1)　第１・３・４・５トレンチの遺物（第24図）

１は凹石で、玄武岩製。長さ11.2㎝、幅9.4㎝、厚さ5.0㎝。第１トレンチⅠ層出土。２は須恵器甕の破片で、色調は青灰色。外面は格子状のタタキ目、内面は同心円状のタタキ目痕を残す。第３トレンチⅠ層出土。３は条線地。縄文時代中期後半の曽利Ⅲ式。第４トレンチⅡ層出土。４は須恵器甕の破片で、色調は灰色。外面は平行状のタタキ目が残る。第４トレンチⅠ層出土。５は須恵器甕の破片で、色調は灰色。外面は平行状のタタキ目。第４トレンチⅠ層出土。６は須恵器甕の破片で、色調は灰色。外面は平行状のタタキ目。第５トレンチⅡ層出土。７はかわらけ底部で、底径7.0㎝。色調は橙褐色。底部に糸切痕が残る。



第24図　出土土器・石器

第4節　まとめ

調査の結果、遺構は確認できなかったが、Ⅰ～Ⅱ層で縄文土器、凹石、古墳時代の須恵器甕の破片が出土した。

第８章　浜井戸遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字浜井戸に所在し、曽根丘陵西側の一角に広がる南西の延びる台地上に立地する。

当遺跡内を縦断して村道建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は50㎡である。

平成11年（1999）２月６日　発掘調査を開始

平成11年（1999）２月12日　文化庁に発掘報告を提出

平成11年（1999）２月18日　発掘調査を終了

第２節　調査方法及び基本層序

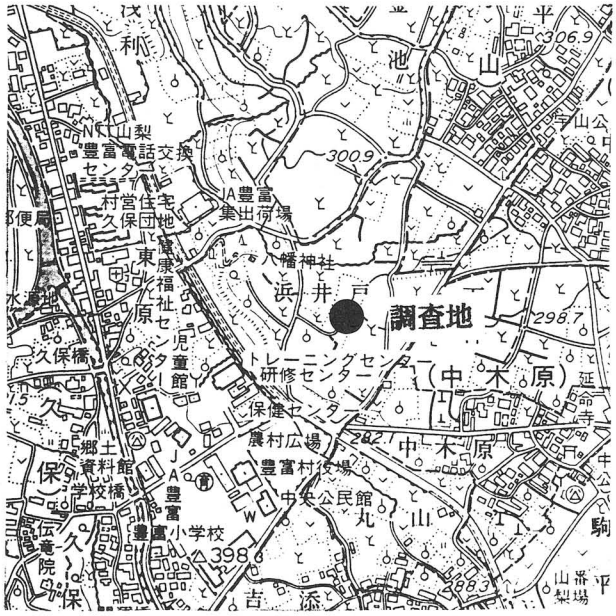
調査方法は調査対象地に応じて、２×10mを１か所、２×15mを１か所のトレンチを設定して、それぞれに１～２区と名づけ、ローム面まで掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは25～50㎝である。

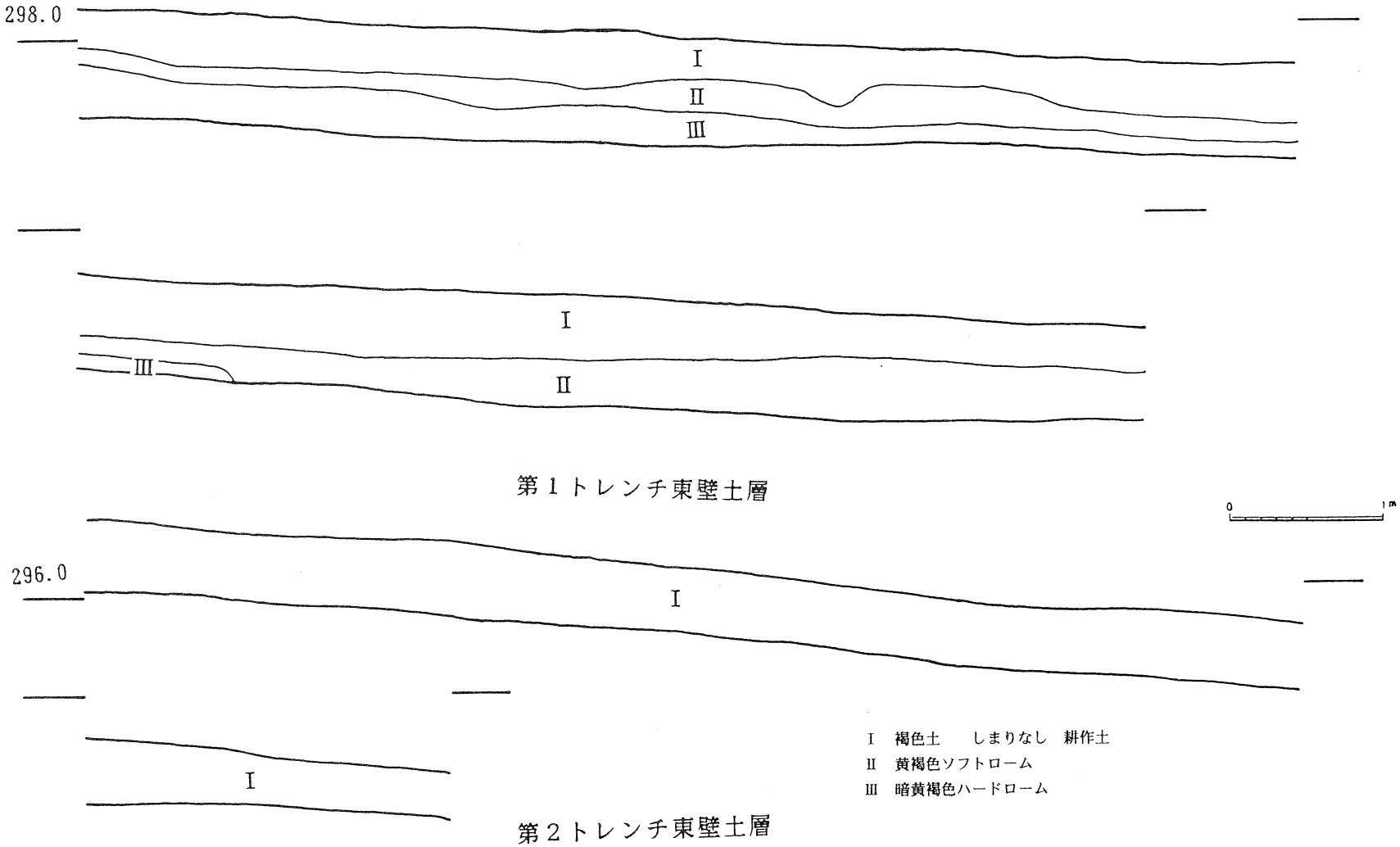
第Ｉ層　褐色土（耕作土）　　第II層　黄褐色ローム

第３節　まとめ

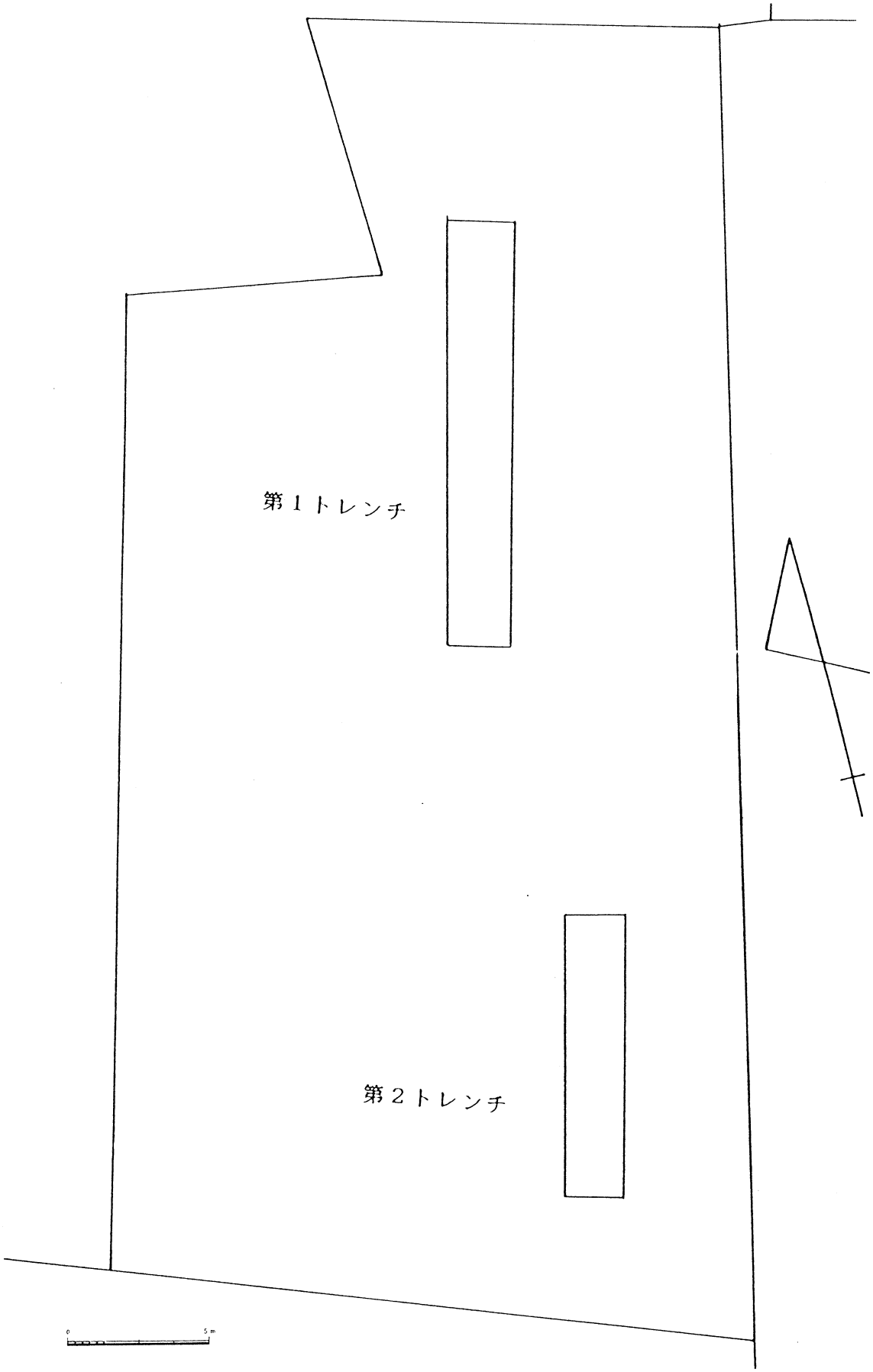
調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第25図　調査区位置図(1/10,000)


298.0
I
II
III
I
III
II
第１トレンチ東壁土層
0
1m
296.0
I
I
第２トレンチ東壁土層
I　褐色土　　しまりなし　耕作土
II　黄褐色ソフトローム
III　暗黄褐色ハードローム

第26図　土層図



第27図　全体図

第９章　弥二郎遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村関原及び木原地内に所在し、甲府盆地の南側から東側に連なる曽根丘陵を形成する台地頂部に立地する。

当遺跡内の西端、木原字弥治郎地内で村道建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は18㎡である。

平成11年（1999）２月22日　発掘調査を開始

平成11年（1999）２月23日　文化庁に発掘報告を提出

平成11年（1999）２月23日　発掘調査を終了

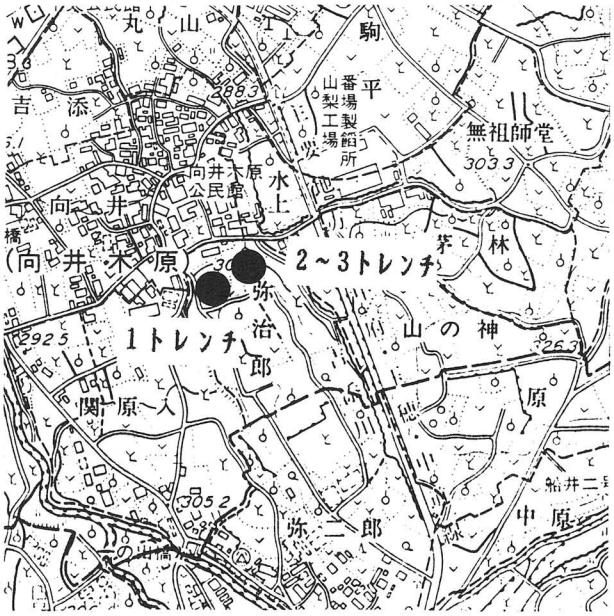
平成11年（1999）２月25日　南甲府警察署に遺失物発見届提出

第２節　調査方法及び基本層序

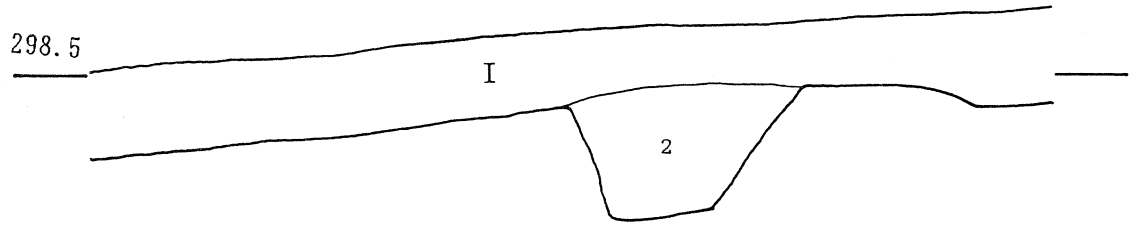
調査方法は調査対象地に応じて２×２ｍを２か所、２×５ｍを１か所のトレンチを設定し、それぞれに１～３区と名づけて、ローム面まで掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第Ⅲ層までの深さは20～90㎝である。

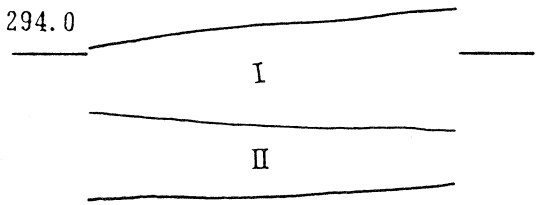
第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　暗褐色土　　第Ⅲ層　黄褐色ローム



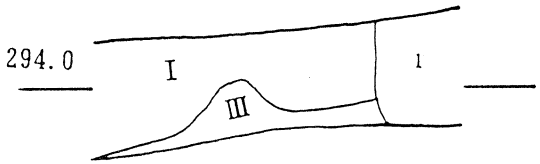
第28図　調査区位置図(1/10,000)



第１トレンチ東壁土層



第２トレンチ東壁土層

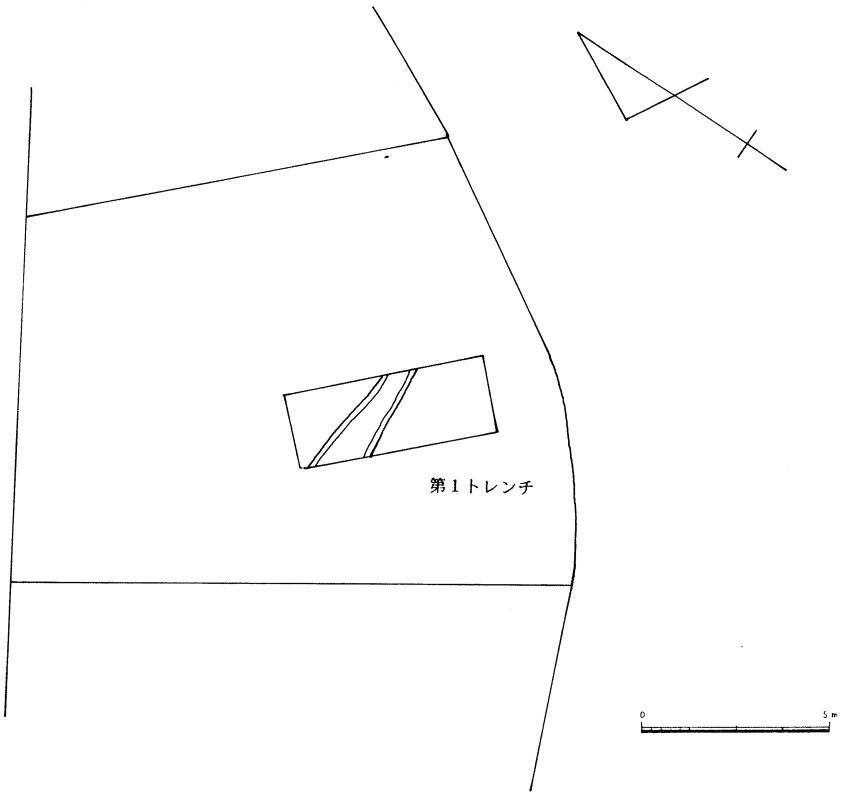


第３トレンチ東壁土層

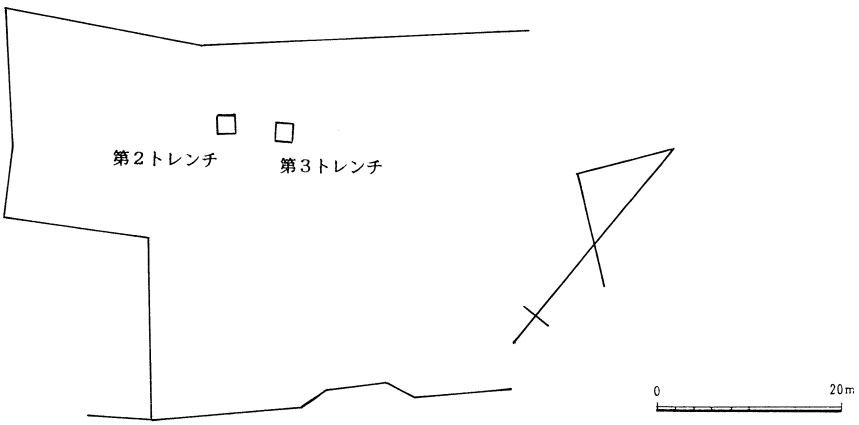
0　1m

Ⅰ　褐色土　　しまりなし　耕作土
Ⅱ　暗褐色土　しまりややあり
Ⅲ　黄褐色ローム
1　攪乱層
2　褐色土　しまりややあり　１号溝の覆土

第29図　土層図



第30図　全体図(1)



第31図　全体図(2)

第３節　検出した遺構と遺物

(1)　第１区の遺構と遺物（第32・33図）

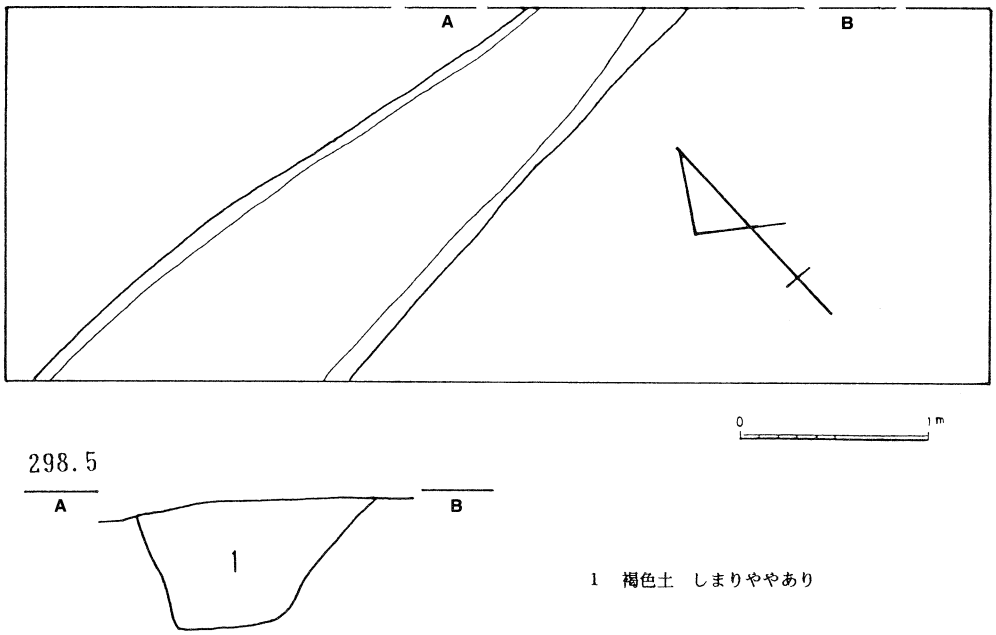
１号溝

１区の中央から西側にかけて、ほぼ東西に走る。東西両側は調査区外に延びる。床面は南北幅60～115㎝、深さ65㎝を測る。急な立ち上がりで、床面はほぼ平坦である。覆土は褐色土である。

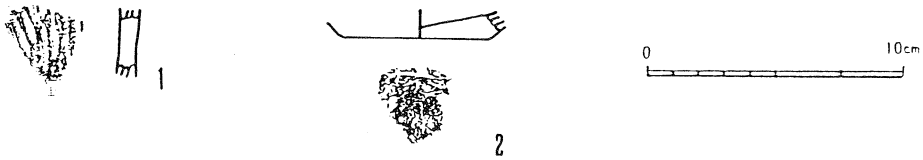
出土遺物は１の縄文土器片が１点と２のようなかわらけ片が２点出土した。

第４節　まとめ

調査の結果、１区から溝が１本検出されたが、出土遺物からそれほど古い時代ではなく、近世以降と思われる。今回の調査地は遺跡西端の傾斜地であり、遺跡の中心はもう少し東側の台地の平坦部にあるのだろう。

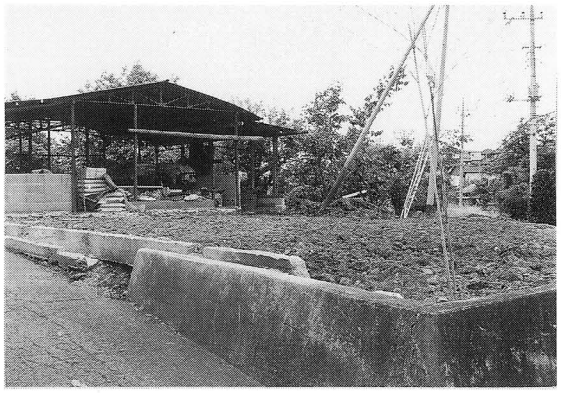


第32図　１号溝

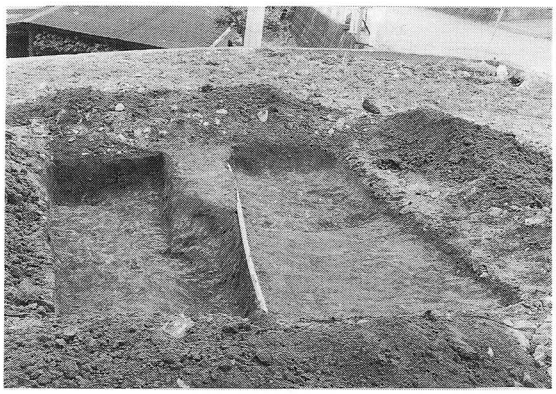


第33図　出土土器

図版1

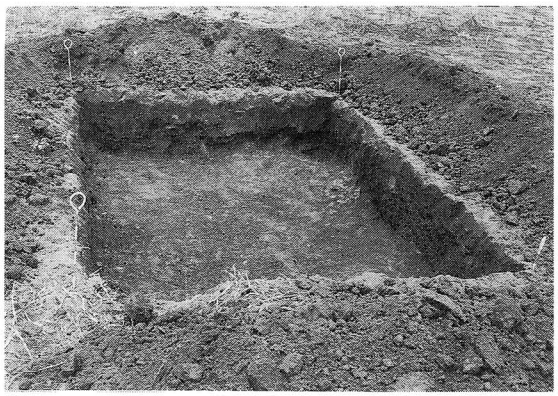


代中遺跡調査前風景（５月調査）

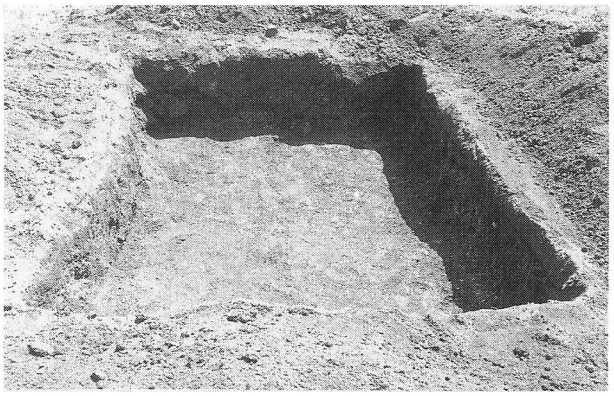


代中遺跡完掘（５月調査）

代中遺跡調査前風景（７月）



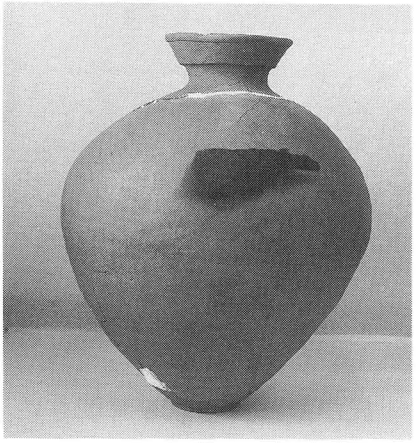
代中遺跡完掘（７月調査）



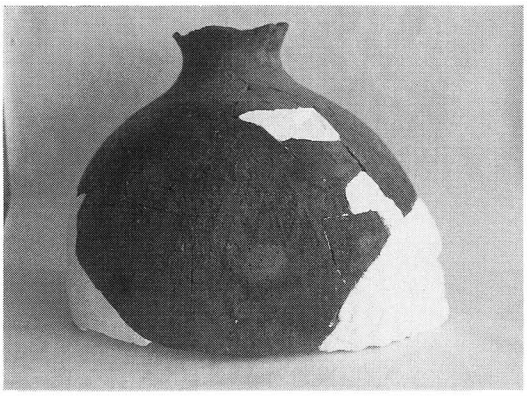
三枝氏館跡完掘

上野原遺跡土器出土状況

図版2

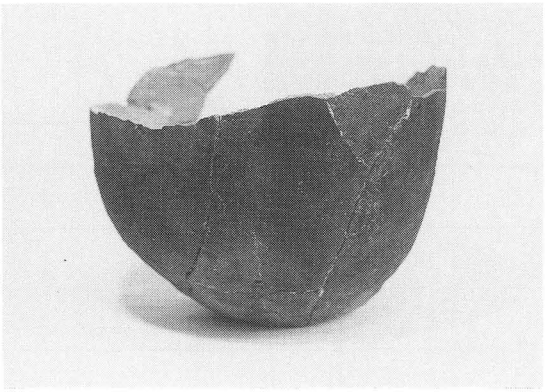


上野原遺跡出土遺物



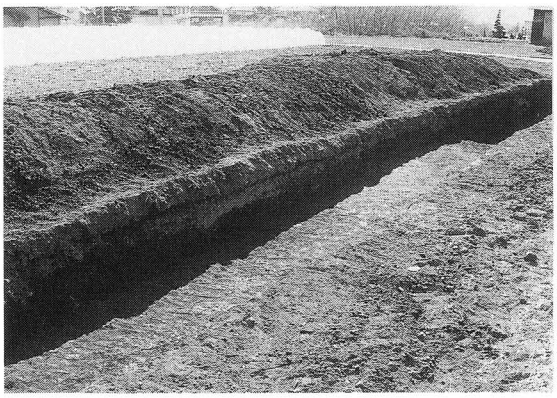
上野原遺跡出土土器

高部宇山平遺跡１号溝



高部宇山平遺跡１号溝　出土土器

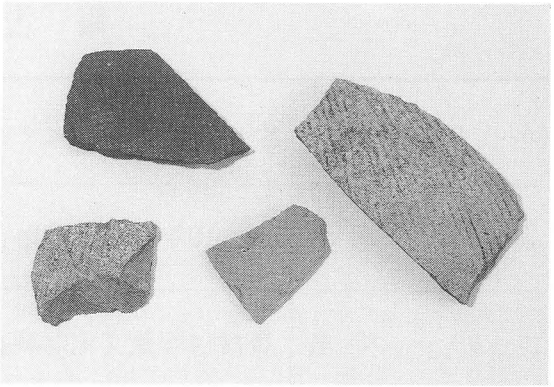
高部宇山平遺跡第３トレンチ



高部宇山平遺跡第７トレンチ

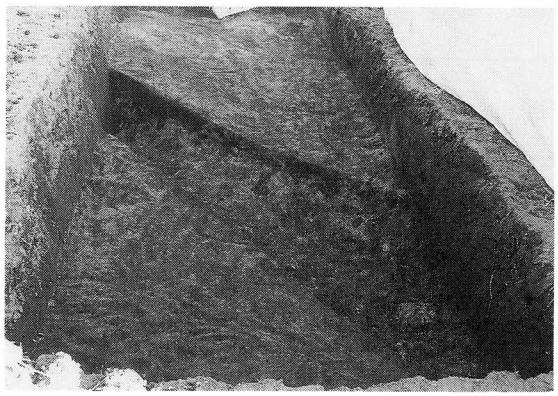
図版3

宇山遺跡第１トレンチ

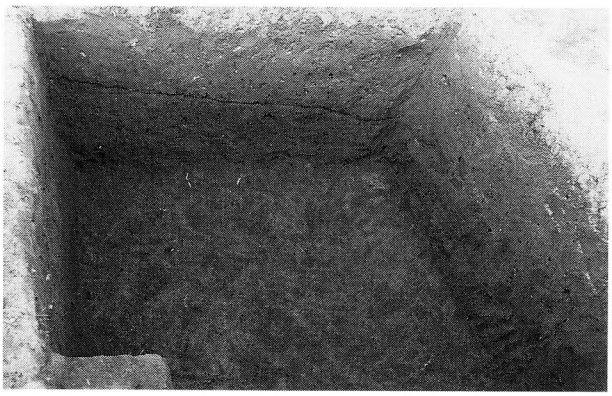


宇山遺跡出土須恵器

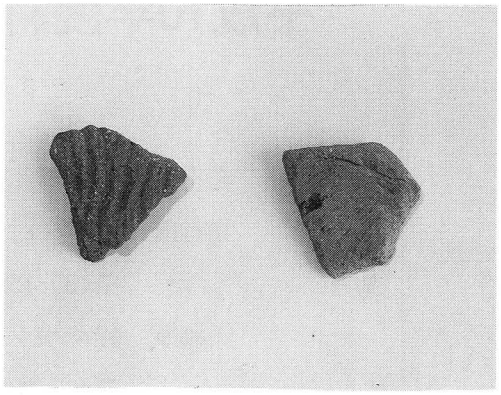
浜井戸遺跡第１トレンチ



弥二郎遺跡１号溝



弥二郎遺跡第２トレンチ



弥二郎遺跡出土土器

報 告 書 抄 録

ふ り が な	へいせい10ねんどそんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書 名	平成10年度村内遺跡発掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	豊富村埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第8集
編 著 者 名	岡 野 秀 典
編 集 機 関	豊富村教育委員会
所 在 地	〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866 TEL 055-269-2447
発 行 年 月 日	1999年3月31日

豊富村埋蔵文化財調査報告第8集

平成10年度村内遺跡発掘調査報告書

発行日 1999年3月31日

発行所 豊 富 村 教 育 委 員 会

〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866

印刷所 ㈱エ ン ド レ ス

〒405-0014 山梨県山梨市上石森123